

公益財団法人 山陽放送学術文化・スポーツ振興財団  
 第5回（令和6年度）スポーツ振興助成  
 （スポーツ振興奨励賞・スポーツ振興特別奨励賞）受賞者

氏名・グループ名	スポーツ振興奨励賞
<p>うえまつ としき  <b>上松 俊貴</b>            (NTT 西日本)</p>	<p>岡山理科大学附属高校、早稲田大学出身のソフトテニスプレイヤー。</p> <p>2016年岡山インターハイでは個人優勝を遂げるなど、小中高大の全てのカテゴリで全日本優勝を果たした。</p> <p>2024年9月韓国で開催された第17回ソフトテニス選手権大会において、初出場ながら男子シングルス決勝をストレートで制し、日本勢初の優勝を果たし、男子団体の3連覇にも貢献した。ミックスダブルスでも日本初の銀メダルを獲得し、合計3つのメダルを手にした。</p> <p>今後も世界レベルの活躍が期待される。</p>

氏名・グループ名	スポーツ振興奨励賞
<p>おか しんのすけ  <b>岡 慎之助</b>            (徳洲会体操クラブ)</p>	<p>2024年8月にパリで開催された第33回オリンピック競技大会の体操競技、男子団体総合、男子個人総合、男子種目別鉄棒において3冠を達成。さらに平行棒でも銅メダルを獲得した。1大会3個の金メダルは52年ぶり、4個のメダルは40年ぶりという快挙を成し遂げた。</p> <p>岡山市出身で、おかやまジュニア体操スクール（岡山市）で基礎を磨き、競技を続けてきた。度重なる怪我を乗り越えて飛躍を遂げた。</p> <p>日本体操界のけん引役であり、また世界を舞台として今後も活躍が期待されるトップ選手である。</p>

氏名・グループ名	スポーツ振興奨励賞
<p><b>岡山大学陸上競技部</b>            (岡山大学)</p>	<p>2024年9月、「全日本大学駅伝」の中国四国地区選考会で優勝。11月の本大会への出場を果たし、最終順位は23位、国立大学の中では2番目という成績を残す。2024年10月に行われた「出雲駅伝」に初出場し総合17位。また2024年11月の「中四国学生駅伝」では準優勝。</p> <p>全国大会への出場は岡山大学史上初で、三大駅伝の内2大会にダブル出場という快挙。スポーツ推薦制度もなく、指導者も不在という環境下において、学生の部員自らが練習メニューを考えたり、遠征費用をクラウドファンディングなどで集めたりするなど、すべて学生自治で部の運営を行っている。</p> <p>部員一人ひとりの思いと努力が、創部75年目にして見事歴史を塗りかえる原動力となった。若いアスリートたちの更なる活躍が期待される。</p>

氏名・グループ名	スポーツ振興奨励賞
<small>くわき しほ</small> <b>桑木 志帆</b>  (大和ハウス工業(株))	<p>2024年6月の「資生堂レディースオープン」でレギュラーツアー初優勝。そして8月の「ニトリレディース」でツアー2勝目。さらには11月のシーズン最終戦「JLPGA ツアーチャンピオンシップリコーカップ」において国内メジャー初制覇と快進撃を見せた。</p> <p>プロを目指すジュニア選手とも交流の機会を持つなど、子どもたちに夢を与える活動にも力を入れており、岡山県のスポーツ振興にも大いに寄与している。</p> <p>世界に羽ばたく女子プロゴルファーとして、今後益々の活躍が期待される。</p>

氏名・グループ名	スポーツ振興奨励賞
<small>さかもと みお</small> <b>坂本 実桜</b>  (株)日立製作所	<p>創志学園高等学校(岡山県岡山市)在学中に、2年連続で選抜大会を制覇し、高校総体でも全国制覇した経験を持つ。</p> <p>2018年GEM3(U18)代表メンバーとしてアジア女子ジュニアソフトボール選手権大会での金メダル獲得に貢献。2019年U19ワールドカップでは開幕投手として活躍し、銀メダルを獲得する。2024年WBSC女子ワールドカップには日本代表選手として出場し、投手として活躍。10年ぶりの優勝に貢献した。</p> <p>日本の女子ソフトボールを盛り立てるアスリートであり、今後五輪等での活躍が期待される。</p>

氏名・グループ名	スポーツ振興奨励賞
<small>なかやま じゅんのすけ</small> <b>中山 惇之丞</b>  (岡山商科大学)	<p>第78回国民スポーツ大会ライフル射撃競技成年男子エアピストルで成年種別では最年少で初優勝。この種目の岡山県の優勝は19年ぶり。ビームピストルからエアピストルに持ち替えて、わずか9ヶ月での日本一であった。</p> <p>2025年2月アジアンカップ大会に日本代表として初出場するなど、成長著しい選手である。</p> <p>高梁城南高校ライフル射撃部出身。最終学年時には、全日本ライフル射撃競技選手権大会、JOCジュニアオリンピックカップで優勝。</p> <p>五輪出場を目標に全力で練習に取り組んでおり、今後益々の活躍が期待される。</p>

氏名・グループ名	スポーツ振興奨励賞
<small>みずかわ はるな</small> <b>水川 晴奈</b>  (法政大学) ※2024年度	<p>2024年7月、イタリアで開催された第19回世界剣道選手権大会の女子団体で優勝という快挙を成し遂げる。世界選手権の女子代表に最年少で選出され、勝利に貢献した。</p> <p>同年6月に開催された第58回全日本女子学生剣道選手権も含め、個人で史上最多となるインカレで3度の優勝を達成した。</p> <p>倉敷市出身で5歳から剣道を始める。2018年の西日本豪雨での被災を乗り越え、競技を続けた。</p> <p>2027年日本で開催予定の世界選手権で活躍が期待される剣士である。</p>

氏名・グループ名	スポーツ振興特別奨励賞
<p> <small>きむら まさあき</small>  <b>木村 正明</b>            (株)ファジアーノ岡山            スポーツクラブ)         </p>	<p>           2006年に「故郷に恩返しをしたい」という思いから、経営の立て直しを図るべくクラブを株式会社化し、代表取締役就任。前職の退職金をクラブの運営費に充てるなどしながらスポンサー集めに奔走。翌2007年には200社のスポンサー支援を得られるまでに成長し、JFLへの昇格を果たした。社長就任から3年でJリーグへの加盟を成し遂げ、J2に参入。専用の練習場を整備するために約28万人の署名を岡山市に提出し、政田サッカー場の整備を実現させるなど、チーム強化のため精力的に活動を続けた。途中Jリーグの専務理事を務めるなどの経験も積み、2022年にはファジアーノ岡山のファウンダー・オーナーに就任。選手やサポーターらとともに「J1昇格」という目標を掲げ、J2昇格から16年目に「J1昇格」を実現させた。         </p> <p>           多くの県民、サポーターに愛されるクラブの礎を築いた功績を称えるとともに、今後も子どもたちに夢を与え続けたいとする木村氏の更なる活躍が期待される。         </p>

氏名・グループ名	スポーツ振興特別奨励賞 候補対象理由
<p> <small>ながお みつしろ</small>  <b>長尾 光城</b>            (兵庫大学)         </p>	<p>           1997年に日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を取得後、岡山県スポーツ協会の理事、スポーツ医・科学委員会委員長、岡山陸上競技協会医事科学委員長、倉敷市スポーツ振興協会副会長等、県内各地でスポーツドクターとして活動を行ってきた。「日本スポーツ協会公認スポーツドクター岡山県協議会」では設立から参画し、個々で活動していたことを事業化し、現在は副会長をつとめる。         </p> <p>           国民スポーツ大会では永年岡山県選手団帯同ドクターして選手・チームに対しメディカルサポートを行い、また選手・役員の健康管理にも携わり、2024年佐賀国民スポーツ大会では天皇杯順位15位という結果に大きく貢献した。また、2025年1月下旬から2月上旬にかけて岡山県で開催された第79回国民スポーツ大会冬季大会では、会場ドクターとして、大会の成功に尽力した。         </p> <p>           長年にわたり「岡山県」のスポーツ医・科学を支えてきた功績を称えるとともに、今後益々の活躍が期待される。         </p>